

財政構造改善の基本方針を示す



西宮市議会議員

石井市長が財政悪化を受け 職員200人程度を削減へ

石井登志郎市長は10月、幹部職員を集めて訓示し、令和6年度から5年間の財政構造改善基本方針を示しました。4年度決算で深刻な財政悪化が表面化したことを受けた措置。200人程度の職員を削減することなどを目指すとしています。

市議会9月定例会で認定された令和4年度決算の普通会計(一般会計と中小企業勤労者福祉共済事業、公共用地買収事業、母子父子寡婦福祉資金貸付事業の各特別会計を合わせた会計)の

かんの雅 まさかず

実質単年度収支は約42億4千万円の大赤字でした。

市の説明では、令和5年度以降も年度平均で40億円を超える赤字になるとしています。現在のように財政基金などでこの収支不足を補い続けた場合、10年度末には基金が枯渇するとみられており、「早ければ7年度か8年度の予算編成にも支障が出かねない(財政課)としています。

令和元年度の普通会計の実質単年度収支が約50億4千万円の大赤字になっており、市の財政構造は以前から深刻な赤字体質でした。しかし、2年度は土地開発公社からの返還金、3年度はコロナ対策などによる国・県の支出金の超過交付額が多額に及んだこと、地方交付税が手厚く交付されたことなどの特殊要因で2年連続の黒字だったため、市役所内で赤字体質への危機感が薄い状況でした。

石井市長は訓示で「単年度で40億円以上の収支改善を目指し、令和11年度には収支均衡を実現する」と強調。40億円以上の収支改善のうち半分以上を人件費抑制で賄いたい」と語りました。

石井市長は200人程度の職員を今後、数年間かけて削減するのをはじめ、諸手当の見直しや現在は勤務時間の午後5時半まで開けている窓口を午後5時に閉めることなどの対策を検討するとしています。

しかし、これらの対策について、石井市長は事前に幹部職員と十分な協議をしておらず、実現させるまでの具体的な計画を策定していません。

このため、職員の間では「200人の削減を退職者不補充などの自然減だけで実現するのは難しい」「石井市長は赤字体質の財政構造を見直さしてきた自らの失政を思いつきのアイデアで隠そうとしている」などの厳しい声が出ています。

私は所属する「会派・ぜんしん」のメンバーとともに、一貫して財政構造の問題点を指摘して行財政改革の実行を訴えてきました。石井市長をはじめとする行政の不作为によって財政悪化の事態を招いたことは大変残念であり、議員としての力不足に責任を痛感しています。財政構造改善に向けた市の取り組みを注視するとともに、改善に向けた具体的な提案をしていきます。

西宮市政報告

かんの新聞

第34号
年4回発行

ジャーナリストの視点で 調べる・伝える



元産経新聞記者 保守系無所属



市が西部工場の解体工事計画を公表 ダイオキシン類と石綿を完全除去と説明

市は9月、ごみ焼却施設として平成24年まで稼働した西部工場(浜松原町)の解体工事計画について地元説明会を開いて公表しました。工場内には毒性の強いダイオキシン類や石綿(アスベスト)があり、市はこれらを完全に除去したうえで解体することにしており、外部に漏れ出すことはないとしています。

事前調査では、工場棟内の焼却施設と煙突の中に、燃焼の過程などで生成されたダイオキシン類があることが判明。工場棟などに、建築資材として使われた石綿と外装塗装に含まれる石綿が存在することもわかりました。

ダイオキシン類の除去作業では、工場棟の窓や扉、煙突穴をシートや合板などを使って密閉します。そのうえで、工場棟内の空気を集塵機で吸引し、ろ過。工場棟内の空気の圧力を外部より低く保ち、ダイオキシン類を含む粉塵が外部に漏れることを防ぎます。

そのうえで、焼却施設と煙突に付着したダイオキシン類などを高圧洗浄で洗い流します。これによる廃水を漏れなく集め、専門の水処理施設で浄化処理。ダイオキシン類などを分離した廃水は下水道の排出基準を満たすことを確認のうえ、下水管

に排出します。

解体時に飛散性が高い壁ボードに含まれる石綿はその空間を隔離養生したうえで、集塵機で内部の空気の圧力を低く保ち、外部への飛散を防ぎながら手作業で除去します。石綿を含む外壁の仕上げ塗材は外部足場とシートで隔離養生して集塵装置付きのディスクグラインダーで削ります。

除去作業で集められたダイオキシン類や石綿を含む廃棄物は法令に基づき、廃棄物の性状に合わせて密閉容器に梱包して場外に搬出するとしています。

解体工事は10月からの仮囲いで本格的に開始。各棟で汚染物資の除去作業を行ったうえで解体を実施します。令和6年度中に全工事を完了する予定。

工場内の土壌については調査の結果、ダイオキシン類はありませんでした。基準値を超える重金属類などが見つかりましたが、表面から50センチ以上の深い部分にあることから残置しても拡散することはないと判断し、今回は除染しないとしています。地下構造物の撤去も行いません。

問い合わせ先
市施設整備課 ☎22-6601

お待ちしております!!

西宮市政についての疑問や意見をぜひお聞かせください。かんの雅一が問題を丹念に取材したうえで、わかりやすく説明します。

地元の集まりや趣味の会合などで市政の現状について聴きたい場合もご連絡ください。かんのが
出向いて市政報告をします。



定期送付のご案内

西宮市政報告「かんの新聞」は年間4回、発行し、南甲子園地区(市立南甲子園小学校の校区など)と周辺地域を中心に各戸配布し、西宮市内に配達する産経新聞朝刊に折り込みとして入れます。それ以外の方、ビラ配布禁止の集合住宅にお住まいの方、確実に入手したい方には定期的に送付します。下記●印の必要事項を記載いただき、お申し込みください。市政へのご意見、ご要望や「かんの新聞」のご感想もお書きいただければ、うれしいです。「かんの新聞」のバックナンバーをご希望の方もご連絡ください。

●「定期送付希望」●郵便番号●ご住所●お名前●ご連絡先電話番号●メールアドレス

はがき宛先 〒663-8153 西宮市南甲子園3丁目4-51-101 メール・FAXでのお申し込みは
かんの雅一宛 本紙最下段に記載の宛先まで

言葉の解説 西宮市マンション管理適正化推進計画とは何?

マンションの管理の適正化の推進に関する法律における国の基本的な方針に基づいて計画を策定し、マンション管理の適正化を総合的かつ計画的に進めるもの。市が現在、策定しており、現行の計画期間は令和6年1月から10年3月まで。市内には、令和4年末時点で1404棟、6万1207戸の分譲マンションがあります。築35年以上の高経年マンションが増加しており、居住空間や周辺の住環境への影響をもたらす分譲マンションの劣化や管理不全を防ぐため、市は法律や計画に基づく各マンションの管理計画の認定や管理組合への助言・指導、分譲マンションの実態調査などを行います。



本名:菅野 雅一(かんの・まさかず)

昭和33年(1958年)、神戸市生まれ。上智大学文学部新聞学科卒業。昭和60年に産経新聞社に入社。平成27年1月に退社し、同年4月の市議選に初当選。令和5年4月の市議選で3選。5月から副議長。保守系で政党無所属。「会派・ぜんしん」メンバー。南甲子園自治会会長。社会福祉法人真砂ちどり保育園理事長。NPO法人海浜の自然環境を守る会副理事長。防災士。保育士。

次号は令和6年2月の発行予定です

かんの雅一事務所

〒663-8153 西宮市南甲子園3丁目4-51-101
TEL:090-1895-1488 FAX:0798-40-9530
《MAIL》info@kannomasakazu.com

●詳しい政策はホームページへ www.kannomasakazu.com

かんの雅一 検索

市が民間事業者提案の構想を公表 阪神西宮駅北側エリアの再生事業 公民複合施設に市立中央図書館が入居へ

市は11月、阪神西宮駅北側エリアの再生事業について地権者などである阪神電気鉄道やDaigas(大ガス)グループ、NTTアーバンソリューションズから提案を受けた構想を公表しました。市立中央図書館などが入居する公民複合施設などが整備されます。完成は令和12年の予定。市はこれら民間事業者の事業を支援します。

再生事業の対象エリアはバス待機場や市道、和上公園をはじめとする阪神西宮駅北側の約2ヘクタール。土地の高度利用によって良質な都市空間をつくり、西宮の玄関口にふさわしい環境を整備するのが目的。

構想では、国道2号までのエリアを市道や和上公園の再編などによって一つの街区として一体的に開発します。

増床された商業施設「エビスタ西宮」の2階部分から歩いて行けるペDESTリアンデッキで接続された部分に公民複合施設を建設。その中に現在、川添町にある市立中央図書館をはじめ、商業テナントなどが入居します。その北側には、高層の分譲マンションを建設します。



■阪神西宮駅北側エリアの再生事業のイメージ。駅側から公民複合施設などを望む(民間事業者からの提案書より)

タリーに一般車を流入させない環境を整え、人と公共交通機関を優先した安全で快適な交通環境を整備します。公民複合施設の2階部分にデッキテラス「まちなか広場」を設置して市民の交流やイベントなどに活用することによって駅前のにぎわいを創出。デッキテラスには緑豊かな植栽によって駅前空間に憩いの場を提供するとしています。

甲子園を音楽の街に! こうしえんまちなかフェスを開催へ 12月3日に甲子園駅前広場で市と球場が後押し



■岡本理恵さん(左)と高田志麻さん=甲子園駅前広場

甲子園地区を音楽で盛り上げようと、地元ミュージシャンが中心になって「こうしえんまちなかフェス(グリーン・サウンド・スタジアム)」を12月3日、甲子園駅前広場(ム)で開催します。

このイベントの実行委員会代表の岡本理恵(芸名・ムーチョ)さん、甲子園町在住の副代表の高田志麻さん、花園町在住の梅田はるかさん、メジャーデビューをしたこともあるシンガーソングライター。最近では2人も子育てをしながら曲づくりや関西を中心としたライブ活動を続けています。岡本さんは今年度から阪神甲子園球場がある甲子園町の自治会長に就任。地域の清掃を楽しみながらできるようにしたいと、清掃活動のテーマソング「グリーンアップ」もつくりました。

2人は約3年前に知り合い、「甲子園を音楽の街にしたい」という思いで意気投合。今年に入って毎月のペースで甲子園周辺の飲食店などで地域密着型のライブ「まちなかライブ」を開催してきました。

会場には、地元の飲食店による飲食ブースや日本酒の有料試飲コーナー、子どもたちのためのゲームコーナーも設置。家族連れが料理を楽しみながら音楽を鑑賞できる環境を整える計画です。

市は自治会などの地域団体に對する支援策として、地域の情報発信力を強化し、回覧や会員配布などの負担を軽減するため、デジタルコミュニティ事業を手がけるPIAZZA(本社・東京都中央区)と連携して、地域コミュニティアプリ「PIAZZA(ピアッツァ)」を活用した事業を展開します。

市が自治会の情報発信をアプリで支援

気軽に簡単につながることを目的としたスマートフォンアプリ。市は今年2月から6月末まで、川添町自治会の協力を得てこのアプリを活用した地域活性化の実証実験を実施。「使いやすい」「情報発信が容易」などの評価を得たため、令和6年1月から市全域を対象とした「西宮市エリア」を開発して展開します。

来年1月から市全域で展開

ページの最新情報をはじめ、子育て支援や防災、防犯などの情報に加え、地域のグルメやイベント、不用品の譲り合いなどの情報が発信される予定です。

自治会活動などを支援するため、各自治会の希望に応じてグループを設定。このグループの中で、自治会は夏祭りや運動会、清掃活動をはじめとするさまざまな地域情報を発信して参加者の募集や情報意見の交換などを行うことが出来ます。

問い合わせ先
市地域コミュニティ推進課 ☎35-3279

今津灯台を移設 県が津波対策などの一環で クレーンでつり上げ、海上輸送 来年2月に再点灯へ

兵庫県は9月1日、今津灯台を約160メートル離れた対岸に移設しました。今津灯台の文化財としての価値を重視して上部の木造部を解体せずに、クレーンでつり上げて台船に載せ、海上輸送しました。

この日は午前7時半ごろから、木造部をクレーンでつり上げて台船に載せました。台船が対岸に着くと、クレーンで移設場所近くの仮置き場に設置しました。

これらの計画によって今津灯台の周辺に新しい新川水門を建設したのをはじめ、新川と東川の河川水を海に排出する統合排水機場や流入水路をこれから整備するため、今津灯台を移設する必要がありました。

基礎は解体して石材を陸送し、移設先で組み立てます。そのうえで、木造部を載せることにしています。移設先では、今津灯台の周囲に芝生やマツを植え、公園のように整備する方針。移設後の再点灯は来年2月になる予定。



■クレーンでつり上げられる今津灯台=9月1日、今津港